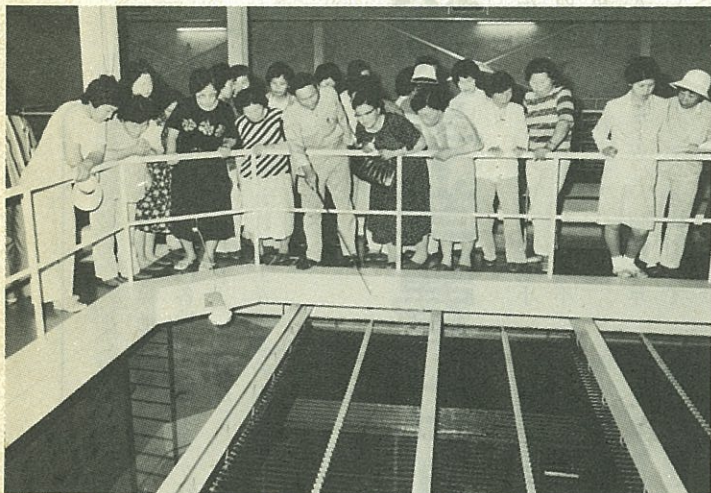


町づくり見学会に 150人が参加

町づくりを皆さんに、より深く理解していただくため「第1回町づくり見学会」が6月27日から30日まで、4日間開かれました。

この見学会には、子供からお年寄りまで150人の方が参加されました。(この見学会の詳細内容は8月号でお知らせします。)



▲浄水場も見学



▲十勝農業賞を受賞した山田さんの牛舎を見学



▲見学後、大石町長と懇談(27日)

今月の主な記事

- ・白人小学校を増改築……………2ページ
- ・苦しい国保会計(国保税が引き上げられます)
……………3ページ
- ・スポーツコーナー(第6回町民陸上競技大会)
……………4ページ
- ・社会を明るくする運動が始まります…5ページ
- ・献血の輪をひろげよう……………6ページ
- ・無火災1800日を達成……………7ページ
- ・ふるさと館ニュース……………8ページ

まぐび

'81 昭和(56年)

354

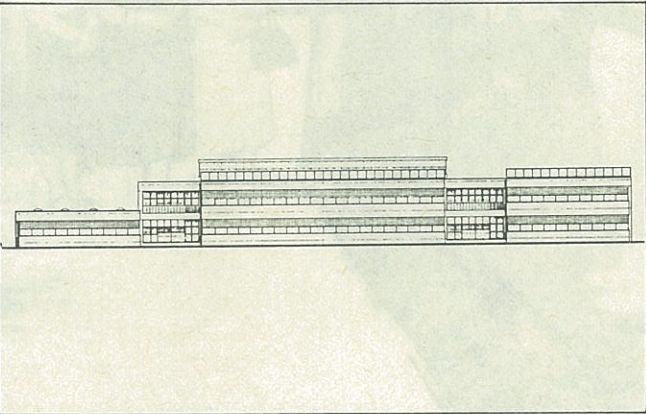
●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555) 4-2111
●編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴ印刷

7

白人小学校を増改築

総事業費は八億三千万円

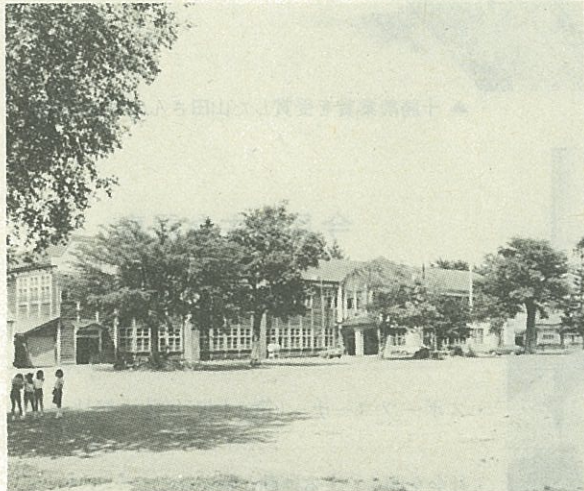
「総合的な福祉社会の建設」を
目指し、町内各地で各種事業が行
われています。六月号から、こと
し行われる主な事業の内容をシリ
ーズでお知らせしていますが、今
月は「白人小学校増改築工事」で
す。



明治三十三年七月、猿別尋常小
学校の分校として開校した白人小
学校が増改築されます。
白人小学校の校舎は、昭和七年
に建てられたもので、老朽化して
おり、今回の増改築となったもの
です。

建設事業規模は、鉄筋コンクリ
ート二階建、総面積四千七百四十
四平方メートル（内、屋内体育館九百九
平方メートル）普通教室十四室（内、特
殊学級二室）、特別教室（理科音
楽、家庭科）三室が計画されてい
ます。

新校舎の設計は、①経費の節減
②暖房の省力化 を考え、屋内体
育館が校舎内部に設けられている
など、十勝管内でも初めての試み
です。
暖房は、札内北小学校と同じ「温
水暖房」が使われます。



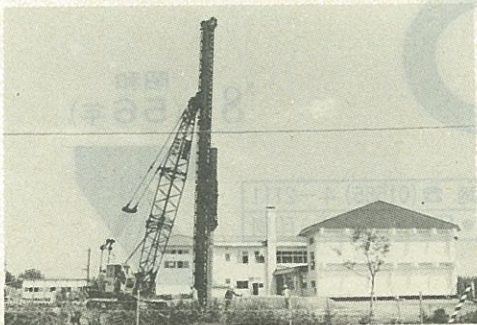
写真上 改築される白人小
写真下 完成予想図

総事業費は八億
三千万円で、二カ
年計画で行われま
す。今年度は、屋
内体育館と校舎の
一部（総面積三千
七百二十二平方メ
ートル）が建てられ
ます。
また、白人小学
校は将来的に「コ
ミュニティスクー
ル」としての構想
もあります。これ
は、将来、生活改
善センターを並設
し、校舎と接続、
昼夜間の総合利用

札内北小学校は 屋内体育館を

を行うもので、昼間は学校が生活
改善センターを利用し、夜間は特
別教室と屋内体育館を地域に開放
する計画です。
新校舎の完成は、五十七年秋に
予定されていますが、白人小学校
の増改築によって、町内の永久校
舎率は八〇%になります。

札内地区に三番目の小学校とし
て四月に開校した札内北小学校。
二年次目のことしは、屋内体育
館の建設工事が行われます。
建設規模は、総面積七百六平方
メートル鉄骨造りで、総事業費は一億一
千五百万円です。完成は、十月末
の予定です。



屋内体育館建設予定地

みんなで考えよう

苦しい国保会計

国保税が引き上げられます

国民健康保険(以下国保という)会計は、加入している皆さんの国保税と国の補助金などで運営されています。ところが、年々増え続ける医療費と六月一日に行われた医療費の改定によって、運営が維持できなくなり、国保税が引き上げられることになりました。今月号から二回にわたり国保会計の内容をお知らせいたします。

の葬祭費(一件一万円)の支給も行われています。

二六・六九%の引き上げ

このように皆さんの健康と生活を守る「皆さんの国保会計」が、年々増え続ける医療費と六月一日から実施された医療費の改定によって運営が維持できなくなりました。

皆さんが一年間に使われる医療費は図一で示すように驚異的に増え続けています。

町では、昭和五十六年度国保会計予算において



健康な毎日を過ごすためには、規則正しい生活と、正しい健康管理が大切です。

「国保制度の使命を全うし適正な保険給付が行える額」を推計してきました。

その結果、医療費は六月一日実施された医療費の改定を含めて、一九・九%の増加が見込まれます。これに

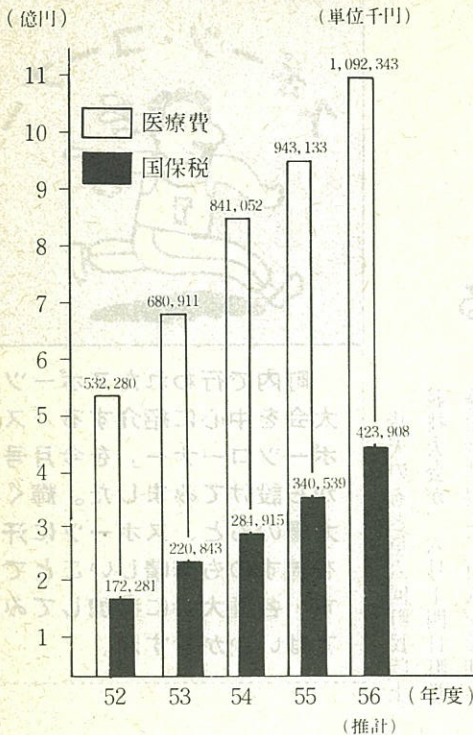
このため、町では平均二六・六九%の国保税の引き上げを町国保運営協議会に諮問し、その答申を

得て、五月に開かれた第三回臨時町議会に提案、可決されました。このことよって標準世帯(夫婦と子供二人の四人世帯、年所得二百万円、固定資産税二万円課税世帯)では、四万八千六百円の引き上げになります。

表一 国保税改定内容

区分	現行	改定
所得割	100分の6.0	100分の7.5
資産割	100分の61	100分の74
均等割	7,800円	10,500円
平等割	12,000円	16,000円
賦課限度額	240,000円	260,000円

図一 医療費と国保税の推移



国民健康保険(以下国保という)会計は、加入している皆さんの国保税と国の補助金、そして町の繰入金で運営されています。その割合は、昭和五十五年度国

保会計(決算見込み)で見ますと国の補助金五三・九%、国保税四一・七%となります。

国保の役割は、言うまでもなく皆さんが医者さんにかかったときの医療費の給付です。普通の場合、かかった経費の三割が自己負担で残り七割を国保が負担していま

千円を越えた場合に、超えた額全額を国保が負担する高額医療給付も行われています。

このほかに、皆さんや家族の方が出産したときの助産費(一件八万円)の支給や亡くなられたとき

町民交通傷害保険



保険料は月額40円

★お申し込み、お問い合わせは 役場交通防災係、支所、出張所へ

ひさびさの青空のもと

各種目に熱戦

第6回町民陸上競技大会開かれる



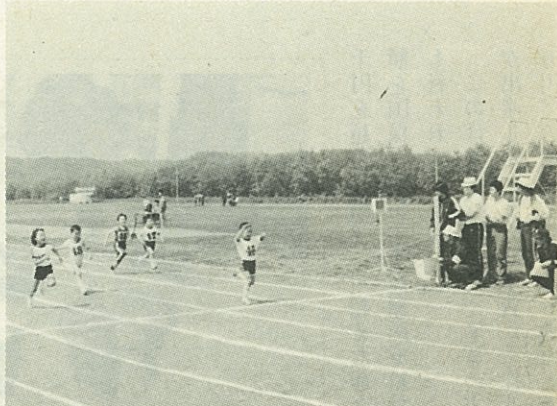
町内で行われたスポーツ大会を中心に紹介する「スポーツコーナー」を今月号から設けてみました。輝く太陽のもと、スポーツに汗を流すのも素晴らしいことです。各種大会に参加してみたいはかがですか。

晴天のもと第六回町民陸上競技大会が、六月十四日町営陸上競技場に二百人が参加して行われました。

競技の結果、十八の大会新記録が出るなど、シーズン初めの大会としては好成績のうちに終了しました。種目別成績は次のとおり(一位ならびに、大会新記録のみ記録を掲載)

男子
◇小学の部 △一年六十斤△松原鉄也(幕小) △二年八十斤△木村尚樹(幕小) 13秒3 △三年百斤△樋口英二(白人小) △同・千斤△一宮将基(幕小) △四年百斤△松村圭(札南小) △同・千斤△山畑尚禎(幕小) △五年百斤△古谷隆(幕小) △同・千五百斤△荒直幸(幕小) △同・走高跳△服部靖広(幕小) △同・走巾跳△香田裕一(白人小) △六年百斤△表博明(幕小)・若月啓良(同) 14秒4 △同・千五百斤△竹内満晴(幕小) 5分32秒5 △同・走高跳△高木清全(札南小)

◇中学の部 △百斤△吉田敏和(糠中) △二百斤△吉田敏和△四百斤△石野新一(札中) △八百斤△村田清志(駒中) △千五百斤△高島学(駒中) △三千斤△村田清志 △走高跳△本保勝俊(札中) △走巾跳△吉田敏和 5斤13 △砲丸投△高島学 △八百斤リレー△札内A
◇高校の部 △百斤△本間朋治(幕高) △二百斤△本間朋治(同) △八百斤△石橋満(同) △千五百斤△渡辺琢生(帯工) △五千斤△城石徹(帯柏) △走高跳△長野聡(幕高) △走巾跳△長野聡 △三段跳△長野聡 △砲丸投△三村政仁(同)



ソフトボール大会では

(女子) 幕別クラブが優勝
(壮年) 春日町

◇一般の部 △走巾跳△大西博文(東急機械) △三段跳△大西博文 △砲丸投△藤家博章(幕中教) ◇壮年の部 △百斤△柳橋敏雄(札北小教) 12秒4 △走巾跳△柳橋敏雄・5斤70
女子
◇小学の部 △一年六十斤△長尾綾子(幕小) △二年八十斤△竹村寿美子(幕小) △三年百斤△額額美佐紀(幕小) △同・千斤△額額美佐紀 △四年百斤△長尾徳子(幕小) △同・千斤△嶋田美紀(幕小) △五年百斤△高山千夏(幕小) △同・千斤△高山千夏・3分46秒2 △同・走高跳
◇高校の部 △四斤リレー△幕別

第五回全幕別女子ソフトボール選手権大会並に、第四回全町壮年ソフトボール大会が六月十四日幕別小学校グラウンドにおいて行われました。その結果、女子ソフトボール選手権では幕別クラブが、また、壮年ソフトボール大会では春日町がそれぞれ優勝しました。大会の結果は次のとおり。
女子 △一回戦 幕別クラブ 7-0 札内農協 幕別農協 7-0 緑町二 △準決勝
幕別クラブ 8-0 パワーズ 札内同好会 10-6 幕別農協 △決勝 幕別クラブ 6-0 札内同好会
壮年 △一回戦 錦町 11-8 若草公区 春日町 19-0 太平洋レミコン △準決勝 明倫公区 13-11 錦町 春日町 11-2 幕別林友 △決勝 春日町 13-1 明倫公区

防ごう非行

助けよう立ち直り

「社会を明るくする運動」始まる

第三十一回「社会を明るくする運動」が七月一日から一か月間、全国一斉に行われます。

この運動は、犯罪の防止と罪を犯した人たちの更生について国民すべてが力を合わせ、明るい社会を築くことを目的としています。

この運動は、昭和二十四年に「犯罪者予防更生法」が施行されたとき、東京・銀座の商店連合会がこの法律の趣旨に共鳴して、保護少年の援護のための少年サマー・キャンプや街頭宣伝を行ったのをきっかけに、その後、運動の輪が次に広がり、今日まで全国各地で地道に続けられてきました。

最近の少年非行は増加の一途をたどり、学校内や家庭内暴力など非行の低年齢化が進んでいます。

とくに夏休みは、学校生活から解放されて、非行への芽生えが始まる季節です。警察庁の調査によると、十四歳から十六歳の年齢層が少年非行の実に六〇%を占めています。なかでも女子の非行が急増しており、増加率では男子のほぼ二倍という高い数字を示しているのです。

そこで今年の運動の重点目標は

「住民の連帯による青少年の非行防止と更正の援助」に置かれまして。犯罪予防や罪を犯した人の更生には、地域社会の温かい協力が

欠かせません。

みんなの力で犯罪のない明るい社会を築きましよう。

おじゃまします

②

交通安全活動を積極的に取り組む

宝町公区

地域活動の活発な公区を訪問して、活動内容を紹介するコーナー「おじゃまします」。今月は、交通安全活動に積極的に取り組んでいる「宝町公区」を訪ねてみました。

現在は百五十戸の大所帯に発展し、昭和五十二年には公区結成二十周年記念式典が行われました。宝町公区を中心活動は「交通安全」です。公区

宝町公区の誕生は昭和三十二年です。以前は、新田ベルト株式会社所有する農地でした。幕別駅に近いこともあって昭和二十五年頃から住宅地として土地を求め人が増え、住宅が建ち並び初めました。その頃、公区の中心部には若菜川が流れ、フナ、ウグイ、ザルガニがたくさんいたそうです。

の中央部を「幕別本通り」が走り、交通量が多いへん多く、以前には、自転車に乗っていた小学生が大型トラックにひかれ死亡するという事故が発生したことから交通安全活動を取り組むことになったものです。



交通安全を呼びかける看板をみんなで作ったり、要所に建てたり、子供会や老人クラブの会合で交通安

全教室を開き、正しい自転車の乗り方などを学んでいます。「交通安全」が話し合える。その話し合いが他の活動にも結びついていき、活発になれば、「と話す長尾公区長。地域活動を活発にするためにはやはり一人でも多くの参加とみんなの結びつきです。公区住民が共通のテーマを持ち活動することも一つの方法では――。

健康

カルテ

③

虫歯予防 その2

「健康カルテ」今月は、前月に引き続き「虫歯予防」です。乳児期の虫歯予防について考えてみたいと思います。

①0歳時にすること

(1)母乳で育てよう

ミルクの甘味が虫歯の要因とも言われています。栄養の点からも母乳で育てましょう。

(2)哺乳瓶のガラガラ授乳はやめる

乳首と歯の間や歯と歯の間にミルクがたまり、長くくわえさせるほど虫歯の危険度が高まります。

食欲やしつけの上からもよくありませんので注意しましょう。

(3)果汁の甘味を制限する

②一歳以上になったら

(1)甘いものはなるべくさける

(2)歯ブラシを持たせる

一歳半位で人のまねをするようになれば、歯ブラシを与え遊びの中に歯をみがく習慣をつけましよう。

また、一日一回必ずお母さんがみがいてあげましよう。歯みがき粉は必要ありません。

(3)食事の最後には野菜か果物を食べる

野菜や果物の繊維は、歯みがきと同じような役目をしますので食後の果物は有効です。

(4)三か月に一回は検診をしましよう

乳歯は悪化が早いので、三か月に一回は検査をして、虫歯を最小限度に止めることが大切です。

献血の輪をひろげよう

7月は「愛の血液助け合い運動」実施中

宇宙時代といわれる今日ですが、どんなに科学の粋をこらしても、まだ人工的に血液を造りだすことはできません。病院で輸血を待っている患者さんに、いつときも早く血液を届けるには、すべて献血に頼るしかないのです。

七月一日から三十一日まで「愛の血液助け合い運動」が行われます。昨年、献血にご協力いただいた方は、町内で千六十三人（延人員）で年々助け合い運動の輪は広がっています。しかし、例年、夏場は血液が不足する季節で、血液を必要とする

患者さんにとって、たいへん深刻な季節なのです。これは、山や海などレジャーに出かける人や、夏の暑さが献血意欲を鈍らせ、献血者が少なくなる



からです。

バスの中で、お年寄りに席を譲るのと同じように、見ず知らずの人に自分の血液を無償で提供することは、まさに尊い行為といえるでしょう。あなたの血液が患者さんの心に生命の灯をともします。街で献血車を見かけたら、ぜひご協力下さい。

献血で

健康管理を

献血していただいた血液は、A B O式・Rh式血液型の判定、不規則性抗体スクリーニング、梅毒検

査、HBs抗原検査、肝機能検査などの検査が行われます。さらにコレステロールの量や総蛋白量など六項目の生化学検査も行い、検査結果を個人にお知らせすることになっています。大切な生命を救う献血が、自分の健康管理にも役立つわけです。献血で健康管理をしてはいいかがですか。

有リン洗剤は

水質を悪化させます

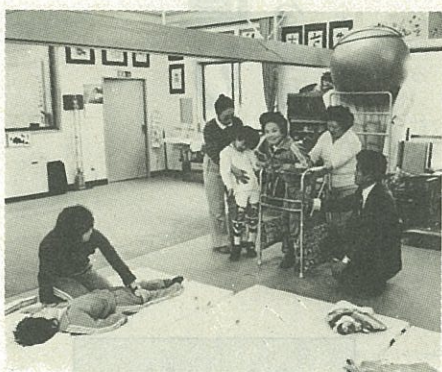
合成洗剤に含まれているリンが、川や海の水質を悪化させることはよく知られています。国（環境庁）では、無リン洗剤の使用を広めています。私たちの生活環境を守るため無リン洗剤を使用しましょう。

国際障害者年特集、今月は「あかしや学級」を訪ねてみました。

卒業後も訓練を続けたい 在宅の障害児(者)に訓練施設を

現在、五人の児童が在籍、週四回機能回復訓練と授業を受けに通学しています。

学級には、職員が三人いて指導にあたっています。学級の目標は精神発達遅滞、言語障害、聴力障害の機能回復を図ることです。このような、肢体不自由児学級は帯広市に二校（一学級）あるだけで、地の町村にはありません。



訓練中の子供たち

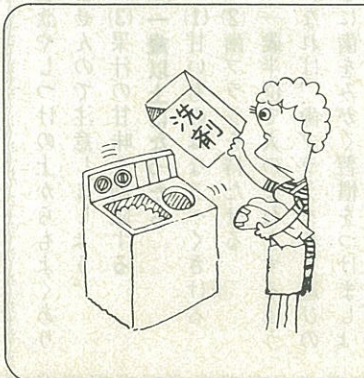
毎日通学する子供たちのお母さんは「現在の指導に満足していません。しかし、これも中学卒業と同時に通学できなくなってしまうます。卒業しても、就職はできない訓練も受けられないのでは、どうしたらよいのかという気持です。卒業

後も訓練を受けられたら……」と話しています。

しかし、十五歳以上の在宅の障害児(者)に対して訓練施設を設けているのは、道内でも旭川市と帯広市の二市だけです。

在宅で訓練を続ける子供たちに何か支えとなるものを、みんなで考えて行かなければならないと思います。

今回は、札内南小学校の言語治療教室を訪れてみます。



無火災1800日を達成

第3分団(南幕別地区)

町民の生命財産を守る消防団は幕別地区に第一分団、札内地区に第二分団(途別班含む)、糠内地区に第三分団(駒島班含む)が設けられています。

各地区では、日頃から防火活動が積極的に行われていますが、第三分団の管轄である南幕別地区では、ただいま無火災記録の更新をづづけています。

南幕別地区での火災は、昭和五十一年五月二十六日明倫地区で農機具などを収納する物置兼車庫から出火したもので、それ以来、現在まで、一件の火災(野火を含む)



この記録をいつまでもと願いをこめて

もなく、去る五月二十六日で「無火災五年(千八百日)」を記録したものです。

この記録は、野火の多い農村地区ではすばらしい記録といえます。第三分団では、この記録を一日でも永く伸ばそうと、より一層の防火活動を展開しています。

消火訓練を実施

— 第一分団で —

幕別消防団第一分団(藤平景夫分団長)と幕別消防署では、消火

器による消火訓練と取り扱い方の説明会を、五月十日旭町三角公園と緑町青少年会館前において行いました。この説明

会には、主婦を中心に百五十人が参加。消防署員による安全な取り扱い方の話しを聞いた後、実際に消火器を使って消火訓練を行いました。

◀消火器を握る手に力が入ります
— 旭町三角公園で —



篤志寄付 ありがとうございます

■町社会福祉協議会へ

▽小幡勝彦さん(札内中央町) から妻が生前お世話になりましたと三万円
▽井上理さん(軍岡) から千円
▽山口与八さん(西和)

から妻が生前お世話になりましたと五万円
▽タンポポサークル(代表山根叡子) から六千円

■老人クラブへ

▽前田信夫さん(古舞) から古舞老人クラブへ一万五千円
▽中橋シサさん(依田) から札内鉄南長寿会へ三万円
▽松田衛さん(稲志別) から稲志別老人クラブ明寿

会へ三万円

■その他

▽新田由男さん(駒島) から駒島公民館へ環境整備にと松の苗木百本
▽佐藤慶治さん(途別) から途別小学校へ図書購入費として五万円

六回目の寄付

店内の募金箱から

錦町の笹島郁夫さんから「国際障害者年でもあり町障害者福祉に役立ててください」と一万九千五百八十八円の寄付がありました。

これは、笹島さんが町内で経営している飲食店に置いてある募金箱



東洋土木(株)が

二百万円寄付

東洋土木株式会社(代表取締役木川東洋治・札内青葉町)から、同社創業十周年を記念して、昭和五十七年度着工予定の農村トレーニングセンター(体育館)建設備品購入に使ってほしいと二百万円の寄付がありました。



に店を訪れたお客さんが入れたお金を寄付されたものです。この寄付は六年前から続けられています。



幕別町ふるさと館

〒089-05 幕別町字依田384-3 ☎(01555)6-3117
AM9:30→PM6:00 毎週火曜日休館

ふ化から 200日をすぎました。人工海水で飼育しているサケは15cmを超えたものもいます。少しずつ濃度を高めていた淡水飼育のサケは少々食欲不振がみ。人工海水は天然海水にほぼ近くまでなりました。

サーモン通信⑨

冒険っ子、あつまれ!

サバイバル・スクール'81

男の子も女の子も一度はトム・ソーヤにあこがれたことがあるでしょう。

ことしもサバイバル・スクールをします。少しの道具をくふうして使いこなして生活をする――

道具だけじゃなく、もちろん自分の頭と体も使わなければならぬ、ちよつときびしいキャンプです。

参加できるのは町内の小学生で、四年生から六年生までです。参加費は千円(障害保険や写真代、食費などの実費)

参加したい人は、ハガキに住所・氏名・学校名と学年・自宅の電話番号

号、そして保護者の添え書き(サバイバル・スクールへの参加承諾の旨)を書いて、七月十五日までにふるさと館に届くように送ってください。先着順に四十名で締め切ります。

参加者が決まりました、くわしい内容を書いたパンフレットを送ります。

道具は、ふるさと館にあるランブヤノコ、鉄ナベなどを使います。昨年の内容を大幅に変えて、ことしのサバイバル・スクールはさらにたのしく、そしてちよつぱり勉強になるはず。幕別の冒険っ子たち、サバイバル・スクール'81に集まれ!

※サバイバルというのは「生存」という意味です。

●連載
第17回

幕別ものがたり

職人氣質の為造親方

為造は眠れぬ夜が何日も続いた。今夜もまた眠れぬまま、あれこれ考えているうちに、東の空が白々と明るくなり、ときを告げるに

わどりの声が、遠く近く聞こえてきた。

為造は、身仕度を整え首に手ぬぐいをかけると、そそくさと工場に出て行き、昨夜おそく作りあげた除草ハローをじつと眺めていた。しばらくして息子(勇造)を誘い、朝もやの立ちこめる中を馬を引、一町歩の畑のはずれにすえた。そして期待と不安を交差させながら、馬を進めたのであった。

しかし雑草はくまなくなぎたおされず、土もまんべんなくまざりあつてはいなかった。

ある日為造は、用事を済ませ帰る途中なんとなく川べりを眺めると、幾本ものヨシが川の中につつま立っていた。そしてそのヨシによって幾重にも小さなさざ波と、細いすができ、川面をくもらせていた。彼はその様子を眺めているうちにヨシが川上の方にさかのぼっていくような、そんな錯覚におちいった。そして、その流れにハッとした。

「そうだ。一連から五連までに

すきまなく釘(除草づめ)を打ちこめば、どの草もなぎたおし、土もまぜ合わせる事ができる」と思った為造は一目散にとんで帰り再び製作にとりかかった。

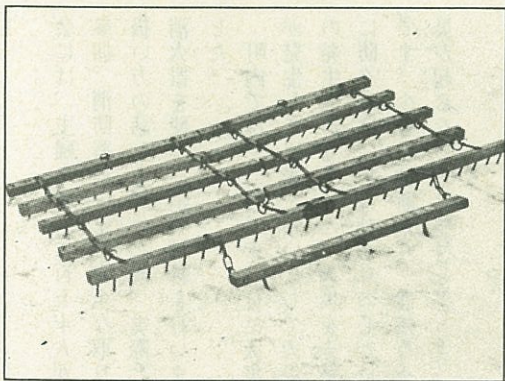
春の蒔付も終わった五月のさわやかなある日、彼は農家を訪れた。農家では土煙りをあげて、発芽前の雑草を枯らすための柴ハローをかけていた。

「助川さん、わしの作った除草ハローをためしに使ってみてくれませんかね」

「どれどれ、これは鉄のつめで作つてあるんでないですか。せつかく芽がでた作物がちぎれたり、ほじくり返されないもんですか?」

「大丈夫だ。おれの畑でためししてみんだ。もし減収になったら弁償しますので」

「うーん。まあ、小野さんの頼みだから、やってみるかね」色よい返事ではなかった。



二人はいろいろと相談して一町歩の青えんどう畑を半分に分け、一方を柴ハロー、他方には小野式ハローをかけることにした。その結果二割以上の収益があった。こないないものはないということ departmentの人たちに買ってもらった。

柴ハローは、柳の木を何本も束ねて平らに並べて組み、それを馬に引かせる原始的な農具だった。明治時代から昭和十五、六年頃まで使われていたという▼昭和九年に南勢から若市街に移住した為造は息子(勇造)と二人で、試作品にうちこみ、自分の畑で何回も試験を重ねた。

「小野式除草ハロー」は、幅を三尺の角材二本でつなぎ、縦に五連連結し、一連から四連まで除草づめが重ならないようにうちこみ、五連めをやや間をせまくした。後に、うね幅が広がったのにもない、横幅は広げられた。除草づめの先端は後方に四十五度まげたのである▼昭和十四年に商標を申請して新案特許をとり、昭和十五年からは小野農機製作所として年産二千五百台を作り、北見、網走、根室、十勝をはじめ全道に販売を拡大していった▼使われ始めた頃は、作物がいたんだとか、さっぱり効果がないなどと悪口まがいのことを言われたが、為造は、春の除草期や亜麻のまきつけ後に使うと効果があることを説いて回った。また、当時日本が占領していた満州(現在の中国東北部)の農業に、北海道の農具が合致しているというので大量に輸出を始めたが間にあわず、息子の勇造は昭和十七年、満州に工場を建設した。内野という人と共同で奉天(シンヨウ)に工場を建設し翌十八年から操業したが、二年足らずで終戦になり、すべて接収された▼小野農機製作所は戦後、勇造に引継がれ昭和四十一年まで続いた。その間、中耕除草機、双輪プラオ、レバーハロー乗用プラオなどを製作。よりよい農業機械作りに夢をいだいたが、大型機械が導入されるに当たってその姿を消した▼それにしても、北海道の畑作にとって多大な功績を残したと言える。

(岩田繁行・記)